

## 「2018年オルビスくまもと未来基金」助成金評価委員会 審査結果

平成29年 12月 7日(木)開催

### 《応募状況について》

応募数:18団体

ママ支援 5件(妊娠産後ママ支援1、働くママ支援1、託児支援1、仮設住宅女性支援1)

ママと子ども支援:5団体

子ども支援:8件

応募団体:NPO 法人1、一般社団法人3、任意団体13、その他の法人1

助成金採択経験あり:11団体

活動場所:熊本県内5、熊本市内1、益城町6、南阿蘇村1、大津・阿蘇市・南阿蘇村1、菊陽町1、御船町1、嘉島町1、玉東町1

### 《評価委員会での意見から》

(企画内容について)

- ・将来の活動計画や方向性が示されていない申請書があった。  
助成金は事業を行うための使い切りではなく、将来に向けた投資・ステップアップのものであってほしい。
- ・仕組みづくりや人材育成なども計画に入れておくと、持続可能な運営ができる。
- ・事業による成果をしっかりと見据えた事業を行ってほしい。。

(予算について)

- ・企画書の活動計画と予算書の数字があっていない団体が多い。計画内容は素晴らしいが、実際の予算には、人件費や物品購入費などの支出が大きな比率の団体がある。
- ・予算の数字からも事業内容が見えてくる申請であってほしい。状況は理解できるが、自己資金や自主事業など資金をうまく適用させた予算計画を立ててほしい。
- ・予算の立て方が曖昧な団体がある。フォローやヒアリングを行ってほしい。

(全体を通して)

・熊本地震後活動を始めた団体が多い。活動初めて1年8カ月。気持ちやマンパワーで活動してきた団体では、資金不足や活動存続、人材不足などの悩みを抱える団体が多い。助成金採択経験団体でも、申請書の書き方や予算の立て方が甘く、今後フォローの必要性を感じた。

・評価委員からは、「復興支援活動をいつまで行うのか、支援側のネットワークや仕組みづくりの時期に来ているのではないだろうか。」そういう意味で、益城町子ども支援団体には連携した活動申請をお願いし、申請額を配分した。

・助成金募集の際、説明会を開催し、助成金のポイントや企画作りワークショップなどに参加して企画や予算を相談できる仕組みを作ると、申請書の企画力が向上するのではないかと、評価委員の意見があった。今後計画していきたい(採択後のフォローアップセミナーは計画している)

・申請書の予算書の書き方については、もう少し詳細な注意事項記載が必要である。

(人件費や備品購入などの割合や内容について等)